

牛久：学校周辺に見る自然

第20号 ひたち野西近隣公園(、筑波実験植物園)

2012年7月22日発行

< ネムノキが咲いています。 >



写真は水辺公園ですが、牛久市周辺では7月に入ってネムノキがきれいに咲いています。淡紅色の糸のようなかたまりが目立ちますが、これは雄しべの花糸で、その先に黄色の葯をつけています。そしてさらによく見ると、このかたまりは、細長いろうとのような形をした花卉に包まれた花が10数個集まってできていることが分かります。写真の右の花のかたまりを見ると、中に何本か、雄しべよりやや長めで白い糸状のものが見えますが、これが雌しべです。左のかたまりのように咲き始めは雄し

10数個の花が集まって咲くネムノキ。左が咲き始めて葯から花粉を出している。右は咲き進んで白い雌しべが伸びてきた。真ん中の花にだけみつがある。

べばかりが目だって雌しべは分かりません。葯はいきいきして花粉をたくさん出しています。咲き進み、雄しべがしおれるにしたがって雌しべがはっきりしてくるのです。じつは、ネムノキの花では雄しべが先に、後から雌しべが成熟して、雌しべが他の花からの花粉を受け取ることで、よい種子をつくるのです。図鑑などを読んでいたら、こんなことも書いてありました。10数個の花のかたまりのうち、てっぺんの1(～3)個は花卉が長くて雄しべが上にも横にも広がっており、その花だけがみつを出しているそうです。つまりネムノキは、少ないみつでたくさん花粉を虫たちに運んでもらえるわけです。うまくできていますね。次回訪れたときには、この点、確認してみようと思います。



花を^{かんさつ}観察していると、ブーンとハチがやってきました。オオハキリバチです。体が黒くて大きいのでこわい感じがしますが、おとなしく、手でつかんだりしなければ刺^さされ^{され}ないそうです。ハキリバチの仲間^{たけつづ}ですが、竹筒^すなどに松や^すにで巣をつくり、葉を切ることはないようです。

← まん中の花に来て、みつを吸うオオハキリバチ。

しばらくすると、もっと^{はくりよく}迫^は力のあるハチがやってきました。おなじみのクマバチです。体も^はおと^と羽音も大きいのでこわがる人が多いですが、こちらもつかんだりしなければ刺^さされ^{され}ません（スズメバチのことを「クマンバチ」と呼ぶことがあつて、誤解^{ごかい}もあるようですね。）。
やはりまん中の花に来て、みつを吸うクマバチ。 →



もう一枚は、翌日につくば市の筑波実験植物園で撮^とったもので、ミヤマカラスアゲハという私の好きな美しいチョウです。

ネムノキは夕方から咲き始めるそうで、花粉を運ぶ昆虫も、これらハチやチョウよりスズメガなどのガが多いそうです。ネムノキという名前は夜になると小葉が閉じて垂れ下がるので「眠りの木」とされたそうで、そこに目だつ花が咲き、スズメガが

↑みつを吸うミヤマカラスアゲハ。7/10筑波実験植物園



↑枝を水平に大きく広げ、盃のような樹形。2006/12/5 筑波実験植物園

集まっているようすを一度見てみたいものです。

最後に、冬に撮^とったネムノキの写真です。いかがですか？ こうして葉がなくなると、全体の形や枝^{えだ}がどのように伸びているかがよく分かりますね。ネムノキの場合は、枝を横に大きく広げ、全体がさかずきのような形になっています。こうして、お日さまの光をたくさん受けられるようになっているのですね。日当たりのよい明るい場所によく見られることから、きっと太陽の光をたくさん必要とする樹木^{じゅもく}

なのでしょう。【理科支援員：宮内】